



クローズアップ
CLOSE UP

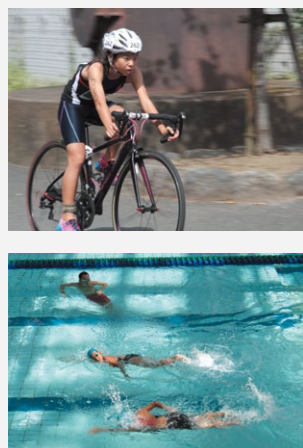
自転車の祭典が盛大に

9月23日にまえばしクリテリウムを、24日に赤城山ヒルクライムを開催。市街地や赤城山を国内外から参加したサイクリストが駆け抜けました。また、クリテリウム終了後には自転車利用促進シンポジウムを実施。自転車のまちについて意見交換しました。



雅楽音色で功績称える

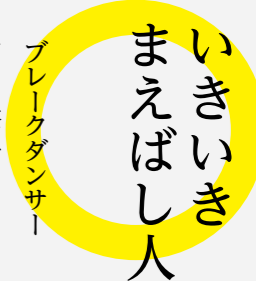
前橋藩主を務めた酒井家の菩提寺・龍海院で、9月22日に管弦講の夕べを開催。雅楽師の東儀秀樹さんの演奏や住職らのトークセッションを行いました。酒井家の官職、雅楽頭にちなんだ今回のイベント。会場には心地よい雅楽器の音色が響き渡りました。



全速力でゴール目指す

9月30日、敷島公園や国体道路、正田醤油スタジアム群馬で前橋トライアスロンフェスタを開催しました。スイム・バイク・ランの各コースが短い、日本一優しい大会に、子どもから大人まで約400人が参加。秋晴れの空の下、全力で挑み汗を流しました。

自分の踊りでブレイクダンス広めたい



ブレイクダンサー
岡田修平さん
(ダンサー名 SHADE、27歳)
文京町三丁目



世界の舞台で活躍するブレイクダンスチーム ARIYA。そのメンバーの一人に市内在住の岡田さんがいる。「好きな歌手の後ろで踊っていたバックダンサーを見てカッコいいなって。これが始めたきっかけですね」元タクラシックバレエを習っていた岡田さん。バレエとは違う楽しさをこう語る。「ブレイクダンスは一つの技を習得するのが難しい。それが出来た時の達成感がこのダンスの醍醐味です。あとは、自分で動きを作り出せるのも楽しいです」個人競技とチーム、共に世界の舞台で戦い成績も残しているが、ブレイクダンスはまだまだ認知度が低いと感じている。「日本ではあまり知られていないのが現状で。世界で活躍するダンサーになりたい、という夢を持つ子どもが増えるような、ブレイクダンスの環境を群馬から作っていかれたらと思っています」

「自分にしか見せられない動き。競技ではここにこだわっています。世界大会で好成績を残すのももちろんですが、自分が踊ってどんな注目されることで、たくさんの人に興味を持ってほしいですね」岡田さんの活躍。それがブレイクダンスへの注目と憧れにつながっていく。

arts前橋の
舞台裏 vol.4



arts前橋の学芸員が美術館の舞台裏や自身のバックグラウンドなどを披露。第4回は五十嵐純が芸術祭の楽しみ方についてお送りします

art前橋
027・230・1144

芸術の秋、arts前橋では前橋文学館と初の共同企画展「ヒツクリコ ガツクリコ」との生まれる場所」を開催します(関連記事2・3頁)。ところで、皆さんは全国各地で美術館を飛び出し、まちなかや屋外などで展示やイベントを行う「芸術祭」があるのを知っていますか。

今年3年に一度の横浜トリエンナーレや2年に一度の中之条ビエンナーレが開催されました。学芸員として各地



の展覧会や芸術祭をリサーチしつつ、arts前橋にゆかりのある作家の作品を見られるのが楽しみです。

9月に終了した宮城県石巻市の「Reborn-Art Festival」では、弁天通り商店街にアトスペース y-art's を構える八木隆行さんや、arts前橋で展示や滞在制作を行った伊藤存さん、増田拓史さんが参加していました。

現在開催中の兵庫県の「六甲ミーツ・アート」では、臨江閣のライトアップでおなじみの高橋匡太さんやarts前橋の開館以前に行ったアートスクールBコースの講師・藤浩志さんが参加。鹿児島県の「種子島宇宙芸術祭」ではarts前橋で滞在制作を行った木村崇人さんが参加しています。

作品鑑賞だけでなく、思いがけない土地との出会いも芸術祭の楽しみ方のひとつ。ぜひゆつくりと現地の名物を食べながら、作品と出合ってみてはいかがでしょうか。